



No.58
 令和4年12月21日
 発行 多治見市教育研究所
 URL: <http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
 本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上で
 ご覧いただけます。

巻頭言

将来の教育でも大切にしたいこと

脇之島小学校 校長 西尾伸一郎

先日、ある研究発表会に参加した。会の冒頭に、その学校の校長先生から次のようなご挨拶があった。「この子供たちが大人になった時に、社会を生き抜いていく力を育まなければいけません。令和の日本型学校教育が示され、さらに『科学技術・イノベーション基本計画』では教育・人材育成が柱に挙げられています。Society5.0の社会に逞しく生き抜くために必要な力を育めるよう、子供主体の学習を創造します。」将来、子供が生きる時代を想定し教育理念を語られる姿に心を惹かれた。

ご挨拶の中で取り上げられた『科学技術・イノベーション基本計画』には、「学年・学校種を超える学びや学年を遡った学び」「教科の本質の学びと共に、教科の枠組みを超えた実社会に生きる学び」等々、現在の学校のイメージでは収まりきらない教育のあり方が示されている。

ここからページを読み込み、【総合科学技術・イノベーション会議資料 Society5.0の実現に~】の2ページ目を参照ください。

この教育理念を受け、その学校が掲げた研究テーマは「自ら問い続ける子」であった。なるほど、目指す授業像も感じられるようなよいテーマだなどと思う反面、ある学校が30年ほど前から掲げているテーマと同じだなどという思いも抱いた。はたして、この研究テーマは将来を見据えた計画を具体化する内容になり得ていくのか、はたまた大切にしたい概念はいつの時代においても変わらないのか。

この先、学校は何を目指せばよいのだろう、この研究発表会に抱いた疑問と、以前、似た

ような感覚になったことを思い出した。アクティブラーニングという言葉が出だした頃のことである。授業改革をしなければならない、得体の知れないカタカナ言葉にどんな授業をすればよいのだろうか戸惑った。その後、この言葉は「主体的・対話的で深い学び」と表現されるようになった。自分なりに、子供たちの追究を言語化させ、交流の後、更に深まった自分を表現することを大切にする授業であり、それまでに目指してきた授業像を更に大切にしていこうとすると、今では理解している。

ひるがえって『科学技術・イノベーション基本計画』にある「教科の枠組みを超えた実社会に生きる学び」というのはどんなものだろうか。現行の総合的な学習の時間とも違うようである。今行っている授業でイメージが近いのは、特別支援学級で行われている生活単元のように、ひとつの目当てに向かっていろんな要素の学びが連続する授業だろうか。現段階で私が想像できるのはこの程度である。

目指すべき授業の様相が時代に伴って変化しようとも、学校の根本で大切にしてきたことには、変わらないこともあるのではないかと。子供たちが社会の中で生きていくことを思うと、人とつながりながら自己実現しようとする人に育てることだと考えている。

今、私の学校では、仲間や自分を『思いやる勇気』を、全校を挙げて大切にしている。新しい学びの中でも、仲間とつながろうとする人は、来る将来を逞しく生き抜いていくはずである。



土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」 素敵な出会いが、今、ここに！

この土曜学習講座実施事業は、子ども達の豊かで有意義な土曜日の実現と、子ども達が「多治見大好き」になり多治見を誇りに思い、新たな一歩を踏み出そうとする大人に成長することを目的としています。

そのため、小さい頃から様々な体験を蓄積し、目の前の課題に対して“自分ごと”と捉えることができるよう、興味・関心の枠を拡げ、「将来こう生きていきたい」とキャリア形成意識の琴線に触れることができばうれしいです。

I 9/17「多治見絵付けの技を学ぶ」



作成した絵付け作品

多治見の上絵付は江戸時代半ばごろに始まりましたが、現在、陶磁器上絵加工工業組合が残っているのは多治見だけとなりました。この貴重な画工職人の方々から直接手ほどきを受け、白いタイルに自分だけの絵付け作品を創りました。

感想・初めて絵付をやってみてとても難しかったです。学校で使っている絵の具と違って水っぽく色が混ざりやすかったからです。でも、先生がコツを教えてくださいのおかげで上手くできました。自分で絵付けをしたタイルの完成がとても楽しみです。

・職人の方が作った作品を見て、本当に手で創っているのか疑うぐらい細かくてすごきれいで驚きました。「このようにきれいに細かく描けるようになるには30年から40年くらいかかる。」とおっしゃっていて、そんなにかかることに驚いたし、その30~40年の間頑張って創っていてすごいと思いました。

II 10/8「わがまち多治見の現代陶芸に学ぶ」

改修工事の為、しばらく閉館していた岐阜県現代陶芸美術館が9月17日に開館しました。新しくなった現代陶芸美術館で、2種類の企画展を観賞し陶芸の世界に浸りました。



転写体験

さらに、セラミックパーク MINO の作陶館の指導をいただきながら、カップやお茶碗、楕円皿の中から一つを選び、転写で絵付けをしてオリジナル作品を創りました。

感想・現代陶芸のすごさを観賞で知りました。

どの作品も陶芸でこんなことができるんだと、もっと興味をもつことができました。

・様々な方法があることを知り、とてもおもしろかったようです。「現代陶芸とは“表す”ことの大切さだ。」と、家で嬉しそうに話してくれました。

・転写は難しいと思っていたけれど、やってみると意外と簡単で楽しかったです。教えてくださった方々のお陰でとても素敵な物が作れました。今までも陶芸には興味をもっていましたが、もっと興味がわいてきました。次からもいろいろな物を作ってみたい、チャレンジしてみたいと思いました。

III 11/19「多治見探訪 下街道なぞときツアー」

恵那大井宿の西にある榎ヶ根で中山道から分岐し、瑞浪、土岐、多治見を経由し名古屋へ通じる脇往還が「下街道」と呼ばれる街道です。この多治見のまちを通る「下街道」や本町、新町、御幸町あたりを昔の人に想いを馳せながら史跡を見学しました。6名のグループでガイドさんに質問をしながら解きに必死に取り組みました。ヒントカードから謎を解く



感想・道標や多治見の昔の歴史が分かってよかったです。とくに西浦さんの家に明治天皇が来たなんて、「すごいなあ。」と思いました。

・「〇〇橋が最初でできて…」橋ができた順番を教えてくださいました。普段生活していると気付かず通り過ぎてしまう所も学習を通して興味をもったようです。

・多治見国長の話聞かせてくれました。私も主人も初めて知ったので今度子ども達に案内してもらおうと思います。「楽しかった！」と笑顔で帰ってきました私もうれしいです。お世話になりました。

・家族での行動では、史跡などはなかなか触れる機会がないので、よい学びになったと思います。謎解きと言うのがとてもよいアイデアだと思いました。

また、各賞の名前を聞いてほっこりしました。

IV 発見！多治見の魅力（中学生アンケートより）

・「多治見絵付け」というものは古くから受け継がれている伝統的なものなので、見るだけではなく自分たちも学びながら体験することができて、印象に残りとてもよい思い出になりました。このように思ったのは私だけではなく、中学生ボランティアも受講者として参加された小学生たちも思っていたことだと思います。このように多治見市の伝統品を広げる活動にもっと参加し受け継いでいきたいと思っています。

・次からの土曜学習では、その日の感想を挙手で交流すると思います。挙手することで学校の挙手につながるし、交流することでより仲を深めることができると思います。半日しか一緒にいられないからこそ、仲を深めることは大切だと思います。

・多治見にはあまり知られていないけど昔の町並みが続いていると思いました。また、町の人に道を聞くと、現地まで足を運んでくれたり、「おはようございます。」と言ったら、「おはようございます。がんばってね。」と返してくれたりするなど、町の人々のやさしさに触れて、私もこのような大人になり、子どもたちにこのように思われたいと思いました。

得意セミナー(夏休みこども向け講座)
～先生方の専門の力を借りて～

得意セミナーの目的は、「特定の分野に秀でた教員等の専門性を活かし、夏休み中に子ども向けセミナー(講座)を開催し、児童生徒の学ぶ意欲や探求心を高める。」ことにあります。本年度も、先生方をお願いをして開催することができました。

実施セミナー

1. 科学作品
2. ポスターセミナー
3. 書道セミナー
4. まが玉づくり
5. 算数セミナー

子どもの申し込み多数のため、抽選により参加者を決めました。

平均の倍率は2倍以上で、人気の事業となっています。

感染症予防対策のために、昨年に引き続き

- ① 密にならないよう人数制限をする。
- ② 児童生徒のみの参加とする。(保護者は送迎のみ。科学作品については、1テーブル1家族として保護者が参加した。)
- ③ 学校と同様、健康観察・検温の徹底、体調不良の場合は休む。

などの対応をとり行いました。実際の様子は以下の通りです。

☆科学作品



☆ポスターセミナー

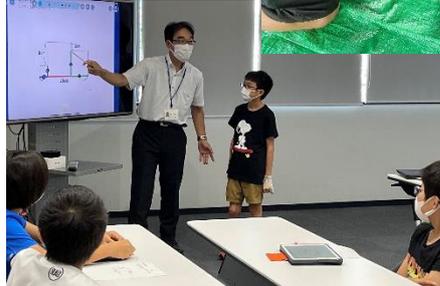


☆書道セミナー

☆まが玉づくり



☆算数セミナー



参加者の感想より

- ・大変だったけど、とても楽しかったし、自分らしいまが玉が作れたのでうれしかったです。次はちがう形のものも作ってみたいと思ったし、一人で作れるようにしたいと思いました。またやりたいです。
- ・先生にアドバイスをもらったり、ほめてもらったりして自信ができました。「喜びの歌」という字はむずかしかったけど、何枚も書いたらだんだんコツがつかめてきてきれいにかけるようになり、とても楽しかったです。
- ・4人の先生たちから、いろんなアドバイスをもらいながら、ポスターを掛けて楽しかったです。また、この夏休み得意セミナーでいろんなことをしたいです。

多くのセミナーで、専門性の高い先生方のアドバイスにより、子どもの作品がみるみる変化し、上達する場面がいくつもありました。

子どもたちにとって人気のあるセミナーなので、コロナ以前のようにできる限り拡充し、保護者とともに参加できるようにしていきたいです。

また、講師を務めてくださった先生方は、毎年力を貸してくださっている方が多く、手順よく進めてくださりました。同じ教科の先生方が集まり、子どもの指導に当たることにも大きな意味があると感じました。

今後、参加できる子どもの人数を増やすとともに、指導にあたってくださる先生方の参加が広まっていくことを願っています。

今年度、新規に採用された先生方の紹介

「子ども達と共に成長していく保育者に」 精華小学校附属愛児幼稚園



梶田 光里

多治見市の幼稚園教諭として働き始めて8か月が経ちました。初めてのことが多く、右も左もわからない状態でのスタートでしたが、

周りの先生方に教えていただきながら、元気いっぱいの子供達の笑顔に囲まれ、毎日楽しく過ごしています。

毎日子ども達と過ごして、やりがいを感じるの、子ども達の成長を感じられたときです。自分で身支度ができるようになったこと、排泄ができるようになったこと、並んで歩けるようになったこと、苦手な食べ物にも挑戦して給食を食べられるようになったことなど、日々保育の中で、様々な場面で成長を感じています。自分も保育者として、子ども達にどのような働きかけができるのか、先輩の先生方の援助の方法や言葉掛けを参考にして、子ども達の成長に刺激を受けながら、共に成長していきたいです。

「全力疾走」

小泉中学校
若尾 一平



私が担任しているクラスの学級目標は『全力疾走』です。「どんなときも、どんなことにも、自分のため、仲間のために全力で取り組む」という思いが込められています。

この学級目標を象徴する出来事がありました。それは合唱祭の話し合いを進めるなかで、一人の生徒が語った言葉です。「自分は音痴だから歌を歌うことは好きじゃないし、大きな声で歌うことも恥ずかしい。でも勝ち負けのない合唱祭だから、その分みんなで大きな声を出したい。」その生徒はこれまでの練習でも、人一倍声を出していました。恥ずかしさの壁を越えて、全力で戦っているこの姿を私は誇りに思いました。

生徒の思いに寄り添い、成長を見届けることの出来る教師という仕事の素晴らしさを感じる日々です。どんなことにも、全力で取り組もうとする生徒に、勇気をもらいながら、私も生徒に全力で向き合っていきたいです。

「充実した学校生活」

平和中学校
野田 侑里



教壇に立ち半年が経ちました。わからないことだらけだった始めの頃とは変わり、少しずつ教員生活に慣れてきました。

担任をさせていただいていることが、私の一番の喜びです。体育祭や合唱祭などの行事や、委員会などの日常生活で輝く生徒の姿を間近で見られることが大変うれしく日々のやりがいとなっています。

4月から一番力を入れていることは教材研究です。生徒達が少しでも理解できるように試行錯誤しながら、授業作りをしてきました。生徒の「わかった、できた」という声が教材研究をする上での励みになっています。

あと3か月で今のクラスや3年生と離れてしまうことがとても残念ですが、精一杯生徒と成長しながら頑張っていきたいと思えます。

お知らせ

○第33回連合生徒会交流会 1月6日(金)

よりよい中学校生活を送るために、生徒会の代表が話し合う会です。昨年度、改定された多治見市中学校宣言に関わって、各校が取り組んでいることや、来年度、取り組んでいくことについて話し合います。

多治見市中学校宣言

私たちは自然と笑顔あふれる学校づくり
まちづくりを目指します

多治見市の中学校の生徒は

- 出会った人に明るく挨拶をします
- 一人一人が自分らしく生活できる居心地のよい集団を目指します
- 情報機器を使う中で正しく判断して使う力を身に付けます
- 持続可能な社会に貢献する一歩として環境美化活動に進んで参加します
- 命や多様性を尊重し、自分や家族、仲間、地域の人を大切にします

平成二十年八月八日 策定
令和四年一月七日 改定
多治見市中学校連合生徒会

○令和4年度 第58回 土と版画展

日時：令和5年2月4日(土)

2月5日(日)

2月6日(月)

土・日 午前9時～午後5時まで

月 午前9時～正午まで

場所：パロー文化ホール